

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

滋賀県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	長浜市立南中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	2	12	22
生徒数	100	106	132	5	343	

研究の概要

1. 研究主題

楽しい英語、わかる英語、使える英語をめざして  
(英語科を切り口として)

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年・英語  
スタートは同じなのに学力差が大きくなる教科であり、学校で学んだことが実際にはなかなか使えないという課題があるため。
- ・1学年、2学年・数学  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
- ・2学年・理科  
昨年度の少人数授業の取り組みから、教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 英語でいっぱい、英語に親しもう</p> <p>研究の見通し(仮説) 身近なところで英語を見たり聞いたりすれば、自然な形で英語になじむことができるであろう</p> <p>研究の内容・方法 ・One Point Englishの放送 お昼の放送の中で日常生活でよく使われる短い英語のフレーズを紹介している。放送原稿の形を決めて英語と日本語で毎日原稿をつくり放送している。そして、紹介したフレーズは生徒昇降口に一週間分を掲示し、少しでもなじんでくればと考えている。さらに、9月11日にはアメリカのテロ事件についての放送を、10月31日にはハローウィーンの放送をするなどして国際面でも放送を活用している。 ・Are You Happy?シートの掲示 月一回心が元気になる英語の言葉を考えて各クラスに配布し掲示してもらおう。ただだらしとした文ではなくて1年生から3年生までが合い言葉のように言える短い文である。お昼の放送でOne Point Englishと同時に今月の言葉として日紹介している。 ・教室のラベリング 特別教室を中心に英語でのラベリングを行った。教室の中にも英語になじめるような環境づくりを考えていきたい。 ・Ask Sara Anything?の呼びかけ こんなこと英語でなんて言うのかなあ、と疑問に思ったこと知りたいこと何でもサラ先生に聞いてみようと言う取り組みである。用紙が準備してあるので、それに書いてサラ先生のところへ持っていくと返事を書いても</p>
--------	---

らえる。さらに他の生徒も見られるように英語教室にも掲示している。

平成  
15  
年度

テーマ  
個を大切にす指導の充実

研究の見通し  
個を大切にす支援や評価を充実すれば、基礎基本がより定着し、学習意欲を喚起できるであろう。

研究の内容・方法

・各学年のコミュニケーション能力の目標設定  
1年生から3年生まで3年間で学習する基本文を中心に目標を設定し、毎時間の授業の最初にペアワークをする。「こんなときどういうかイングリッシュ」と名前を付けて少なくとも2回は行い全員が言えるようになったら次のシートを配布する。ペアは相互評価しながらお互いが目標に近づけるように協力し合っていく。そして、定期的にインタビューテストをして、日頃の練習の成果を評価する時間も設定している。

・個と関わる時間の設定  
少人数授業の中ではその時間に学習したことを一人ひとりの子どもがどれくらい理解できているかを見るために本文のリーディングや新しく習った英語の自己表現の場面を設定し、確認する。1時間の中で数回こうした機会を設けて、必ず全員に英語を言わせて、アドバイスしながら確認する。時間内で十分にできなかった子についてはさらに時間を作ってサポートできるように考えていきたい。

・リーディングの指導  
週2時間ある少人数授業の中では、個と関わる時間において一人ひとりの本読みを確認し、週1時間ある合同授業の中では、リーディングマラソンを行うって最初から今学習しているところまでの通し読みをする。そうすることによって一番身近な教材である教科書を通していろいろな英語の表現を自然な形で身に付けることができると考えられる。また、夏休みや冬休みの課題としてカセットテープに各自で既習の所を録音してやることとした。目標タイムを設定して休みまでに何回か練習し読めない単語などのチェックをした。評価についてはALTに聞いてもらいエバリュエーションコメントを一人ひとりに書いてもらった。

・定期テスト、単元テストの2回実施  
1回目と同じテストをもう1回実施し、できるだけ多くの子に学習した内容が定着するようにしている。しかし、それでも不十分な場合もあり、そういう子供たちへのさらなる支援としてイングリッシュラーを実施した。これはさらに同じ問題に取り組むもので合格できるまで頑張ることを原則とする。

平成  
16  
年度

テーマ  
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

研究の見通し  
コミュニケーション活動を重視した学習の場を工夫すれば、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できるであろう。

研究の内容・方法

・クエスチョンレース  
既習の文型を使ったいろいろな英問に対して、自分の立場で答えることによりコミュニケーション能力を高める。クラスをいくつかのグループに分け、一つのグループ全員が起立し、英問に正しく答えた生徒から順に着席する。グループ内で助け合うことは可とする。

・スピーチ  
与えられた題材について、事前に英文を書いておき発表者はみんなの前で発表する。発表者以外は、ワークシートに聞き取った内容をメモし英問に答える。

・プレゼンテーション

自分が選んだテーマについて、調べ学習などをして原稿を作成しみんなの前で show and tell 形式で説明する。

・インタビューテスト

日常の授業で実施している「こんなときどうするかイングリッシュ」を基本にして一人ひとりインタビューを行う。

・ロールプレイ

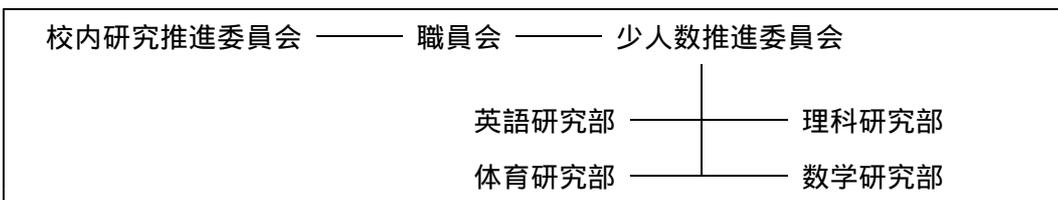
発音に気をつけ感情を込め場面を考え演技するように支援する。

・ディベート

テーマを決め、十分な準備を行うことにより、英語で堂々と自分の考えや意見を述べるができるようにする。

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

### (3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

毎日継続して行っているお昼の放送もかなり定着し、生徒たちの中にはその表現を使ったりする姿が見られるようになってきた。廊下や各教室にも毎週掲示しているので自然な形でなじめるようになってきたと思われる。2年目となる今年度は、定期テストにも自分の好きなフレーズを書いてみようというかたちで出題し、生徒の負担にならないようにして意識付けを行っている。

今年度も3年生において、Fun Fun Englishを実施した。定期テスト前の限られた時間ではあったが、集中したリーディング練習によって昨年を上回る70パーセントの生徒がほぼ完全にテスト範囲を読めるようになった。

また1年生では定期テストをもう一度行うことによって基本文型や重要なポイントを理解する生徒が85パーセントとなり、目標を焦点化するとともに、個により関わることで、そして、繰り返すことの大切さが伺われた。

エデュケーションセミナーと連携した英語検定試験の取り組みでは、97人が受験して、第2回目までで42名が合格し、第3回目を合わせるとかなり昨年以上回る数になるとと思われる。準2級にトライする生徒も増えてきて、1年生では、3分の1が5級に合格することができたし、4級に合格した生徒もいて、いい意味での刺激となっている。

### 2. 今後の課題

\* 研究の今後の課題を明らかにするとともに、次年度（最終年度）の研究の方向性が見えるよう記述すること。

本校では、週3時間のうち1時間をALTとのTT授業、2時間を少人数授業としているので、担当教師間の打ち合わせを密なものにし、学習内容や指導方法について共通理解することが大切である。今年度は各学年担当がリードする形を確認したので、昨年よりは混乱は少なかった。

しかし、課題別や習熟度別などの少人数の取り組みを実施しようとする、授業調整などがなかなか難しく全校体制で考えていかなければならない。次年度は、コミュニケーション活動を重視した学習の場の工夫が中心となるので、いかにして、構えずにいろいろなバリエーションで1回でも多くの取り組みを実践していくかが大きな課題である。また、英語科を切り口としているので、学力向上に関する3つの観点での実践を他の教科にも広げていけるように共通理解を図り、研究体制を整えていきたい。

## 学力把握のための学校としての取組

\* 生徒の学習状況の変容を捉えるために、定期的に行っている各種調査などについて、調査の目的、実施内容、時期等を記すこと。

全校統一の定期テスト・・・定着度を見るため、年5回、5月、7月、10月  
12月、2月、5教科または9教科  
学年実力テスト・・・定着度を見るため、年3回、4月、9月、1月、5教科  
県中学校英語学力テスト・・・話すことの力を把握するため、2月

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

\* 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定(日時、場所、対象、会の目的等)

学力向上フロンティア事業公開授業  
日時 平成15年11月18日(火)  
場所 長浜市立南中学校  
内容 英語・・・少人数授業  
数学・・・少人数授業

平成16年度については日時は未定であるが、11月頃公開授業と研究協議会を実施する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       5年度からの新規校      14年度からの継続校
- 【学校規模】       3学級以下       4～6学級  
                          7～9学級       10～12学級  
                          13～15学級       16学級以上
- 【指導体制】      少人数指導      T Tによる指導  
                          その他
- 【研究教科】       国語       社会      数学      理科  
                          外国語       音楽       美術       技術・家庭  
                          保健体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有       無